



すすめるけん

県がすすめている取り組みを紹介します！

「リモートワークin長崎」プロジェクト ～新しい働き方を応援し、新しい人の流れを生み出す～

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、「リモートワーク」や「ワーケーション」といった新しい働き方が改めて注目を集めています。県では、関係市町と協力して、このような働き方を選択する都市部の企業や個人を受け入れるための取り組みを進めています。

リモートワーク、ワーケーションとは

リモートワーク

「remote(離れた場所)」と「work(働く)」を組み合わせた造語。ICT(情報通信技術)を活用し、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方です。仕事はそのままにUターンなどが可能になります。

ワーケーション

「work(仕事)」と「vacation(休暇)」を組み合わせた造語。リモートワーク制度を利用し、リゾート地・観光地や帰省先などに休暇や研修を兼ねて短中期的に滞在する働き方です。自然環境や観光資源に恵まれた本県はワーケーションの適地といえます。

期待される効果

企業や人材を県内に呼び込むリモートワークやワーケーションには、次のような効果が期待されます。

- ・関係人口^{*}の創出
- ・移住・定住の促進
- ・企業のサテライトオフィスの誘致

^{*}地域に多様な形で関わる人たち

県内市町の取り組み事例

壱岐市

- 24時間365日利用が可能なリモートワーク施設やキャンプオフィス、短期滞在者向けシェアハウスなどを整備
- 都市部企業の期間限定型リモートワークを「逆参勤交代」として、誘致活動を展開



キャンプオフィスの様子

五島市

- 都市部の企業や個人を対象とした島内でのワーケーション体験イベントを実施
- ワーケーションで滞在する人と地域住民との多彩な交流メニューの企画・実施



地域住民とのワークショップの様子

他の市町でもリモートワーク、ワーケーションの取り組みが進みつつあります。



夢をかたちに!

長崎県知事
中村法道

場所を問わず、どこでも働くことができるリモートワークの普及により、都市部を離れ、地方で暮らしながら仕事をする人は、今後さらに増加すると考えられます。こうした新しい人の流れは、本県の活力ある発展につながるため、受入態勢を整備するとともに、各地域の強みや魅力を積極的に発信していきます。

問合せ 県の地域づくり推進課 ☎095-895-2241 長崎県地域づくり推進課 検索



株式会社はまぐりデッキ

(新上五島町)

お話を伺ったのは
代表取締役
宇戸 淳子 さん

住民が集うカフェを ビーチ沿いにオープン

20年前、結婚を機に福岡から移住しました。当初から、上五島にはたくさん良いところがあるのに知られていないのがもったいない、一方で、雇用や若い人たちの遊ぶ場が少ないといった現状をどうにかしたいと考えていました。そこで、子育てが一段落した2018年、行政の支援も受けながら、上五島の海を体感できる蛤浜海水浴場そばにカフェ兼海の家「はまぐりデッキ」をオープンしました。



すり身バーガーやかんころ餅のクラッチをトッピングしたソフトクリームなど、上五島ならではのメニューも提供

弁当販売や朝食営業、 宿泊施設などにも挑戦

現在、従業員は7～8名います。夏はカフェを利用するお客様も多く、サップやシーカヤックといったマリナクティビティやバーベキューなどによる需要も多いのですが、お客様が減少する閑散期をどう乗り切ることが課題となっていました。そこで、弁当販売や朝食営業、ゲストハウス運営によって1年を通じた経営の安定を図ったほか、今年秋からは「エノハマキャラバン」というキャンプ施設の運営も開始し、事業の多角化を進めています。



蛤浜海水浴場に隣接し、海の家とカフェを兼ね備えた「はまぐりデッキ」

地元の人から
「こういう場を作ってくれてありがとう」と
言ってもらえるのが一番うれしいです



つたエールけん

県内で頑張っている企業や人に
エール(応援)を送ります!

上五島の良さを伝える 情報発信源でありたい

観光客を相手にすることは難しさもありますが、地元の中高生が多く利用してくれることが励みになっています。卒業して島外に出た後も、帰省したときには「懐かしか〜」って訪ねてきてくれるんですよ。島の人のよりどころになれるように、頑張って店を続けていきたいですね。また、島外の人たちにもSNSなどで上五島の良さを伝え、島に着いたら「まずは、はまぐりデッキに行ってみよう」と訪ねていただけるような、情報の発信基地となることを目指しています。



マリナクティビティの中でも、船底が透明な「クリアカヤック」が一番のおすすめ

